



こまつ かいぞう
小松 快造
(富岳会)



富士宮市の農業について

問 ①市内の畜産農家は円安による輸入飼料や光熱費の高騰などで厳しい経営状況との声が聞かれるが、市は何か対策があるのか。

②農業従事者不足、後継者問題について市はどのように考えるのか。

部長 ①市では、令和4年度と5年度に、粗飼料価格高騰対策として値上がった価格の一部の金額を補助してきた。また、米の収穫後に田んぼの中に混ぜて耕される稲わらを回収し、牛の餌として使用、代わりに、田んぼの肥料として畜産農家が作った堆肥と交換する事業を令和5年度から実証実験を行っている。稲わらを餌として使用した場合の栄養分や好みなどを研究し、事業化を進めたいと考えている。

②農家に対しアンケートを実施したところ。自



なかの けんたろう
中野 健太郎
(明和)



明星山公園の再整備について

問 公園の魅力向上へ、官民連携手法のパークPFI制度の導入が効果的ではないか。

部長 公園の価値を高め、柔軟に使いこなすため大変有効な手段。事業者が整備、改修、維持管理費が生ずるため、市内公園で効果的に活用できるか、今後も研究していきたい。

問 地元の意見要望の一つで、黒田貫戸線以外に歩いて行ける赤道といったアクセス道路の整備があったはずだ。

部長 まずは皆さんが来られるよう黒田貫戸線の整備に全力を挙げている。環境部、都市整備部で話し合い、必要があれば検討していく。

※パークPFI制度…都市公園において飲食店、売店等の収益施設の設置または管理を行う民間事業者を、公募・選定する制度

身の農地で農業をする人が減っている。農業の基本を学べる「農具学習体験講座」を開催。農業を始めるきっかけづくりを行っている。

持続可能な地域コミュニティの在り方

問 自治会活動の課題認識についてどのように考えるか。

部長 近年、自治会を取りまく環境は大きく変化しており自治会活動に影響を及ぼしていると認識している。コロナ禍で自治会活動の縮小が余儀なくされ住民同士が顔を合わせる機会が減り、自治会活動の再開に影響を及ぼしていると考え。令和3年4月施行の高年齢者雇用安定法の改正で、70歳までの就業確保措置が求められたことにより65歳以上でも働く人が多くなり、自治会役員の担い手不足に拍車がかかった。市では、自治会への負担を軽減させるべく、副市長を委員長とする庁内横断的な組織を立ち上げ、負担軽減のための検討を始めた。今後も、持続可能な地域コミュニティのための自治会活動に対し区長会連合会と連携し支援していく。

人口減少社会における業務改善について

問 富士宮市職員の時間外勤務、ストレスチェック、事務事業の総数の推移は。

部長 令和5年度は、一人当たりの年間平均時間外勤務が平成27年度比で26時間増。ストレスチェックの高ストレス者は令和2年度比で4.1ポイント増。継続して行っている事務事業(業務フロー)は令和3年度比で220件増えた。

問 DX化を進めていてこの数字。人口減少の観点から次期総合計画に盛り込み、庁内全体で改善に取り組むべきと考えるが。

部長 効率的、効果的な行政運営が必要。業務プロセスの改善は具体的な成果が出ていないが辛抱強く取り組み、応える計画を策定したい。

問 公共の関与の是非を念頭に、新事業を行う場合は既存の事業を見直して肥大化を防ぐスクラップ・アンド・ビルド手法を導入しては。

部長 業務改善を一層前進させることは重要。スクラップ・アンド・ビルドの考え方を視野に入れ、時代に合った制度の導入を研究していく。